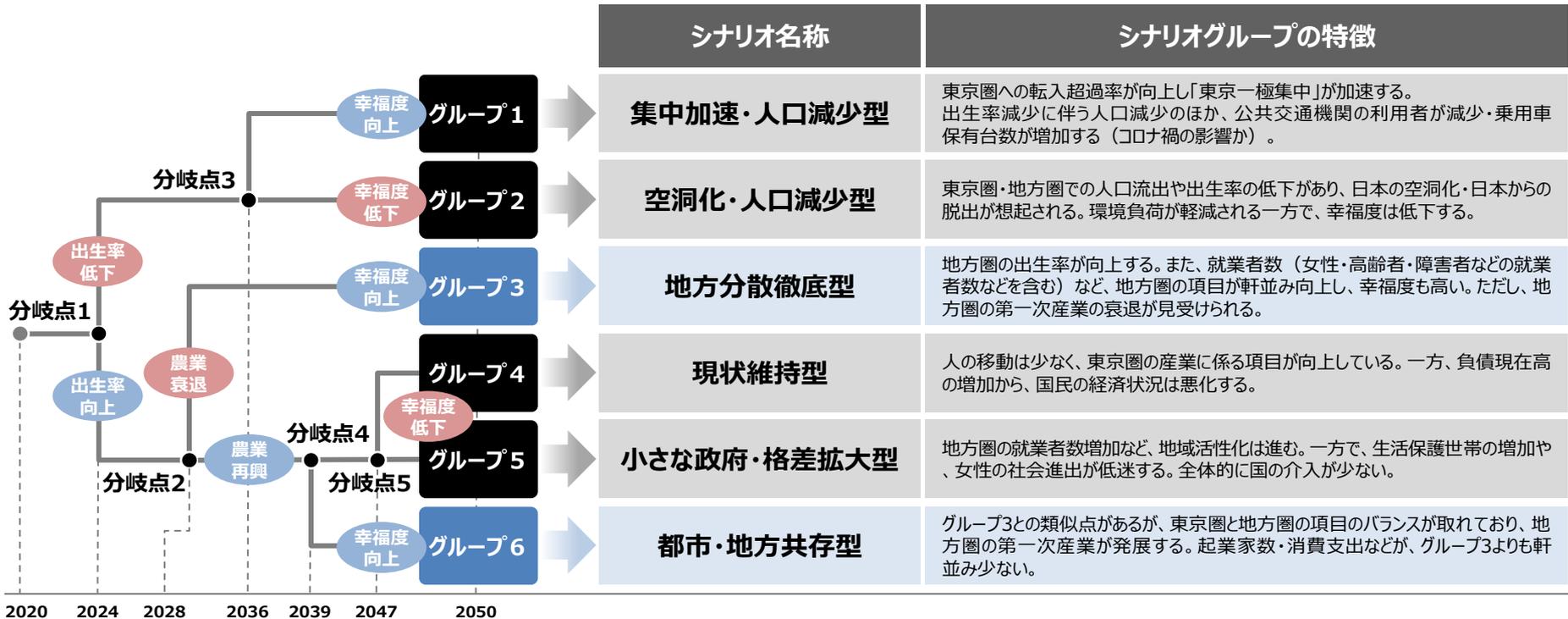


ポストコロナ社会のAIシミュレーション (2021年2月公表)

資料8

- 日立京大ラボと共同開発したモデルに基づき、AIを活用して2050年に向けた2万通りの日本の未来をシミュレーションし分析。
- 女性の活躍という点を含めて、これまでの日本における従来型の“単線的”な働き方や生き方のモデルにとらわれない、男女の役割分担や働き方の柔軟化を含む包括的な意味での「分散型」社会への移行が、出生率低下ないし人口減少をめぐる状況の改善にとっても、また東京と地方のバランスのとれた発展にとっても、特に重要な要因との結果。
- ポイントになるものとして示された要因例・・・共働き世帯の増加、サテライトオフィスの充実、女性の給与改善、農業を含む地方における次世代の担い手の維持・育成支援、仕事と家庭の両立、男性の育児休業取得率の上昇に関する政策等
- →地域未来牽引企業の選定基準とも関わる。

シミュレーション結果：分岐図と各シナリオグループの特徴



総評

- シナリオを構成する個別指標を詳細に確認したところ、6つのシナリオグループは上記のような特徴を持つことが判明した。
- その中でも、前ページでも注目した「グループ3」と「グループ6」が全体的にパフォーマンスの高いシナリオである。
⇒ **望ましいシナリオグループ**

今回の検討で考慮すべき視点

- **第3次産業**（含サービス業、文化、観光等）との連携を視野に入れた対応が重要。（←就業人口では第3次産業が約7割。**女性活躍**とも関連）
- **まちづくり・中心市街地活性化**とのリンク。（←シャッター通り～市街地空洞化では**若い世代**は地域に魅力を感じず流出）
- →たとえば、空き店舗などの有効活用と若者・起業支援の組み合わせ（ex.無印良品が地方都市商店街で始めた「一坪開業スペース」の試み）